

町政運営方針

3つのポイント

今年度の町の指針を3つのポイントにまとめました。

未来へ進め、三芳町！ 2026

01 Go together (共に進む)

過去と未来、地域と世界をネットワークで繋ぐ

昨年10/31(金)、イタリア・ローマの国連食糧農業機関本部で、世界農業遺産認定授与式が開催され、武蔵野の落ち葉堆肥農法推進協議会に認定証が授与されました。認定式の前日、三芳町は韓国河東郡と友好都市協定を締結し、アフリカの諺“If you want to go fast, go alone. If you want to go far, go together.”(早く行きたいなら一人で行け、遠くへ行きたいなら共に行け)のもと、共に持続可能な未来づくりを進めることを誓いました。



持続可能な社会の実現で重要なこの「Go together」を胸に、多くの皆さんと共に歩んでいきます。

02 誰もがプライド(誇り)をもって生きる

共生社会を推進

東京2025デフリンピックで、アダム・コーサ会長は「デフリンピックは障がい乗り越える物語ではなく、ろう者の文化や言語への誇りをスポーツで表現する場」と語り、「手話は誇りであり文化」と強調しました。選手たちの挑戦はこのプライドの表れであり、ホストタウンとしてマレーシア選手団と交流した町内の中学生たちは、挑戦を続ける姿に感銘を受け、互いのプライドを尊重し合う共生社会の大切さを学びました。この出会いを大切に、誰もが個性を活かし力を発揮し、プライドを持って生き、お互いのプライドを認め合う共生社会を推進していきます。



03 いのち輝く未来社会へ向けて

まちづくりの新たなステージへ

三芳町では未来創造拠点「ルミナみよし」と地域活性化発信交流拠点(道の駅)の整備計画が進行中です。地域資源である世界農業遺産やガーデンツーリズムと連携し、地域ブランド力向上や防災機能強化、多世代交流による交流人口・定住人口の増加が期待されています。図書館を中心に「集い・学び・育つ」まちづくりを推進し、新たなイノベーションと共生社会の実現に寄与します。これら二つの拠点を核に、さまざまな施設や団体とネットワークを構築し、「いのち輝く未来社会」の創造をめざした新たなまちづくりが本格的に始まっています。



まちづくりの新たな「芽」を三芳町の未来へ！

ne voice。たとえ一つの声でも、学んだ事実を思いを込めて伝えれば、変化をもたらすことができるはず。 (中略)

ヒロシマの歴史を、一度と繰り返さないために、私たちが、被爆者の方々の思いを語り継ぎ、一人ひとりの声を紡ぎながら、平和を創り上げていきます。広島平和記念式典に参加した子ども代表の言葉です。三芳町の6人の中学生も戦後80年の節目に式典に参加し、被爆者の体験や平和記念館の視察を通じて原爆の悲惨さと平和の尊さを学び、80年前の出来事を後世へ伝える責任を強く感じています。戦争では

三百万余の国民の命が失われ、原爆投下や各地の戦闘で多くの市民が犠牲となりました。現在の平和はこうした尊い犠牲の上に築かれていることを忘れてはなりません。昨年12月には三芳町在住の山本顕一氏と対談し、同氏の父でシベリア抑留の実話を描いた映画『ラーゲリより愛を込めて』の主人公・山本幡男氏について伺いました。幡男氏は過酷な強制収容所でも生きる希望を失わず、「道義」を貫く大切さを遺しました。顕一氏の著書では「最後に勝つものは道義であり、誠であり、まごころである」という言葉が紹介され、これは良

心に反することをせず正しく生きる重みを示しています。現代の国際情勢では「道義」の価値が軽視され、理想と現実の狭間で失望を感じることもあります。自由、平和、民主主義、人権尊重といった理想を捨てず現実を直視することが不可欠です。広島子ども代表の「One voice」と山本幡男氏の「道義」は、私たちが進むべき北極星のような指針であり、その光を頼りに三芳町の発展と住民のウェルビーイングの実現、世界の平和に向けて歩み続けています。また、三芳町にとって昨年は節目の年でした。町制施行55周年のほ



三芳町長 林伊佐雄

か、東京2025デフリンピックのマレーシアホストタウンの役割、オーストラリア・クイーンズランド州との教育協定、韓国河東郡との友好都市協定締結、国連食糧農業機関本部での世界農業遺産認定、ユニセフの子どもにやさしいまちづくり会議の本格始動など、多彩な国際交流・地域活性化が進みました。これらの成果は、未来のまちづくりに向けた多くの芽を生み出しています。こうした経験と教訓を胸に、住民の幸せと平和な社会の実現をめざして着実に歩んでいきます。



広島平和祈念式典参加者をはじめとした中学生と町長と座談会を実施(1月号)▶

★MIYOSHI 2026 TOPICS

多分野での交流と協力を 韓国河東郡とは？

本地域と同時期に「ソムジンガン河口のジジミ漁ソントウル漁業」で世界農業遺産に認定された地域。この縁から三芳町と交流を開始し、認定地域間で初の友好都市協定を締結。今年度も中学生の派遣や訪問団の受け入れを実施します。



★MIYOSHI 2026 TOPICS

誰もが自分らしく 共生社会とは？

障がいの有無、性別、国籍、人種、年齢等に関わらず、すべての人がお互いを尊重し、支えあい、生き生きとした人生を送ることができる社会。三芳町では「みよし Well-beingのまちづくり宣言」などで取り組みをすすめます。



★MIYOSHI 2026 TOPICS

三芳らしさを詰め込んだ小旅行 ガーデンツーリズムとは？

地域の庭園や里山など複数の「庭」を共通テーマで巡り、体験や交流を創出する国土交通省の観光制度。三芳町独自の里山散策や農体験、庭園を巡る「みよし野ガーデン里山探訪」が登録されています。

